

北海道斜里高等学校 高校魅力化

～生徒募集強化に向けて～

北海道斜里高等学校・斜里町・斜里町教育委員会

1.斜里高校が目指す学校像と現状

校訓「凌げ斜里岳」

私たちが目指すのは、生徒一人ひとりが自分の個性と向き合い、「この学校で自分の道を見つけた」と胸を張って言える高校です。そのために、変化の激しい時代を生き抜くことができるような、自分で考え、自分で決めて行動する「自立して生きる力」を育むことを教育の柱としています。平成16年度の総合学科への転換以来、関連教科をまとめた「系列」と幅広い選択科目を通じて、生徒自身が「何を学ぶか」を選び取るプロセスを大切にしてきました。この積み重ねが、生涯学び続け、自立して社会を生き抜く基礎力につながっています。そして、世界自然遺産・知床の自然と人こそが、斜里高校ならではの教科書です。「知床学」や「混合ゼミ」では、知床・斜里を愛する地域の方々を講師に迎え、多彩な授業を展開しています。探究活動から生まれた生徒の発想が地域と連携した商品化に結びつくなど、学びは教室の外の社会ともつながっています。知床の自然を教材に学べるという他にはない最大の強みを活かして、自然を育み、人の輪を広げ、「斜里岳を凌ぐ」力を、斜里高校で育むことができます。

しかしながら、斜里高校の令和8年度の新入生が8名であったことから、次年度以降の入学者数によっては再編・統廃合の対象となります。今年度は斜里町教育委員会と斜里高校が協力して、斜里高校に関するアンケートを実施するなど、探究活動や授業、学校説明会等について中学校、義務教育学校と連携して取り組んでおります。今後も、地域に選ばれる高校となるために、高校魅力化の取組の一層の推進と情報発信に取り組んで参ります。

2.地域みらい留学と斜里高校の将来像

斜里高校では、地域みらい留学による生徒募集を単なる学校存続のための取組として捉えるのではなく、全国から若者が集い、地域の若者とともに学び、挑戦し、地域と関わる仕組みへと発展させることで、斜里高校の持続的な発展と、その先にある地域全体の活力の向上につなげていくことを目指します。

斜里高校の最大の強みは、世界自然遺産「知床」において、「知床学」を中核とした探究的な学びを深めるためのカリキュラムが充実しているだけでなく、その実施にあたって斜里町からの絶大な支援があることです。多くの卒業生が斜里高校で自分を見つけ、個性を磨くことで進路実現を果たしており、斜里町の産業や社会を支える人材となるなど、進学等によって全道、全国で活躍する人材となっています。一方で、少子化や私学無償化の影響を受け、地元中学校等からの進学者が減少し、斜里高校は存続の危機にあることも事実です。6月に実施した中学生向けのアンケート結果からは、進路実現に不安があることや新たな人間関係を求めていること、現在取り組んでいる部活動がないこと等が、斜里高校を選択しない主な理由として挙げられていました。

地域みらい留学を志す全国の中학생にとって、世界自然遺産「知床」の地で学ぶことができる、ということとは大きな魅力であり、寮等による生活基盤を確立することで、毎年一定数の志願者を受け入れることは可能であると考えられます。留学生の受入によって新たな人間関係が生じること、生徒数が増えることによって部活動が活性化されること、何よりも留学生と地元生の相乗効果によって知床学が飛躍的に発展することが期待されます。これまでの知床学の課題研究は、観光、商業、情報分野、商品開発等に関するテーマでしたが、学術的な研究に取り組むことも可能と考えられます。知床学の一層の充実によって進路実現の多様化を実現することができれば、地元中學生の進学率の向上にもつながると考えています。

地元中學生の斜里高校への進学率40～50%を実現した上で、毎年10名程度の地域みらい留学生を受け入れることができれば、1学年2クラス（2間口）の活気溢れる高校とすることができます。

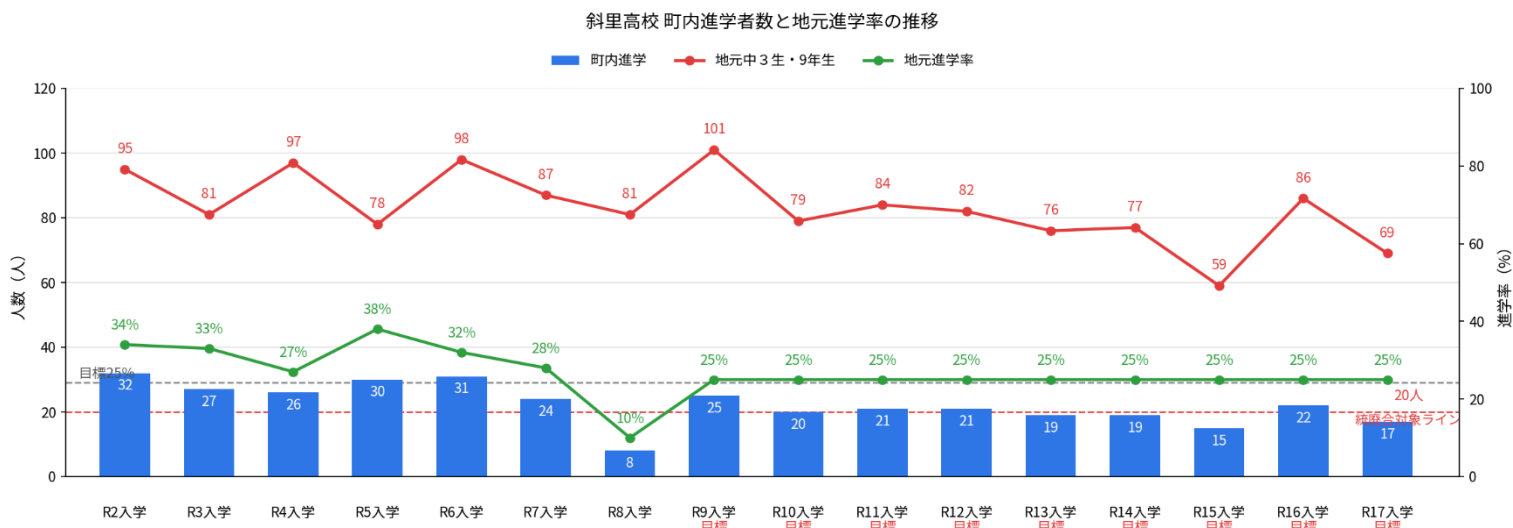
そのために、学生寮や生徒の生活を支える体制の構築とその運営が必要不可欠な状況となっています。

その中核が「知床学」となります。

- 2

4. 地元進学者数の推移

下のグラフは、町内進学者数・町外進学者数・地元中3生・9年生・地元進学率の推移を示したものです。地元中3生・9年生が減少していく中で、地元進学率 25% を維持するために今後どれだけの地元進学者を確保する必要があるかを明確にしています。地元進学率 25% を維持しても、20 人を下回る年が今後あることから、町外生徒の募集も今後重要になると考えられます。



5. 斜里高校の現状と地域連携校について

(1) 現状

- ・令和 8 年度入学生は 8 名（定員 40 名を大きく下回る状況）
- ・北海道教委の基準により、令和 9 年 4 月の入学者が 20 名未満の場合、再編・統廃合の対象となる
- ・令和 9 年 4 月の入学者が 10 名未満の場合、令和 12 年度から募集停止となる

(2) 地域連携校制度について

「地域連携校」に申請すると、T-base による遠隔授業が可能になるほか、入学者が 20 名以下になった場合でも再編・統廃合が一定期間留保されます。一方で、認定されると教員定数が 1 名減となるため、現在の教員体制では運用が難しく、今年度の申請は高校として見送りました。来春の地元進学率が 25% 未満だった場合には、「地域連携校」への申請を検討しております。

(3) なぜ「地元進学率 25%」なのか

地域連携校への申請には、3 学年のうち少なくとも 1 学年の地元進学率が 25% を上回っている必要があります。現在、2 年生は 28%、1 年生は 10% です。町内の中学 3 年生（斜里中・ウトロ計約 100 名規模）を基準にすると、地元進学率 25% はおよそ 26 名、30% であればおよそ 31 名の進学に相当します。

令和 9 年度・令和 10 年度の入学者の地元進学率が 25% 未満のまま推移すると、再来年度には 25% を上回る学年がなくなり、地域連携校の申請要件そのものを満たせなくなる可能性があります。

6. 地元進学率を高めるために

(1) なぜ地元進学率が低いのか

中学生アンケート（斜里中 3 年生・ウトロ学校 9 年生、回答数 95 件）では、高校選びで重視するポイント（最大 3 つまで選択）として「高校卒業後の進路実績」を挙げた生徒が 58 人（63.7%）と最多で、1 位だった。また、進路希望先別のクロス集計では、「斜里高校以外」を志望する生徒 59 人のうち 49 人が進路実績を重視すると回答しており、他の回答（学科の種類 34 人、学校生活の自由度 43 人など）と比べても多い。保護者アンケート（回答数 140 人）でも同様に「進路実績」が最重視項目の 1 位となっている。一方で、「斜里高校を志望しない理由」の自由記述には「希望する学科がない」「進学実績に不安がある」といった声が複数見られる。

上記の分析から、「斜里高校では進学ができない」というイメージが中学生・保護者にあり、そのため「進学したいなら斜里高校には行かない」という選択になっていることが分かった。

しかし昨今は総合型選抜などもあり、総合学科が大学入試に著しく不利ということもないため、このイメージの払拭が課題である。

(2) 対応策

まず、学校生活や日々の活動の様子を継続的に地域内へ発信するとともに、進学実績や指定校推薦枠など、総合学科でも十分に大学等への進学が可能であることを地元向けにしっかりと伝えていく。

同時に、「斜里高校では進学ができない」というイメージの背景には、進学情報に限らず、斜里高校からの情報発信の頻度が低く、斜里高校でどのような学校生活が送れるのか広く認知されていないこともあると考えられる。そのため、斜里町と斜里高校がうまく連携していきながら、町内の広報などで、斜里高校での特色ある活動の様子（知床学の様子など）をより積極的に発信することで、町内での斜里高校の理解を深め、町内での斜里高校の魅力を高める。

また、進学を後押しする環境づくりとして、公設民営塾の設置もあわせて検討を進める。

さらに、地元進学率の向上と町外からの生徒募集は、切り離して考えることのできない関係にある。地域外（道外）からの入学者を増やし、その生徒たちを中心に PR を行うなどして学校イメージの払拭を図るとともに、町外生が加わることで町内生同士の間人間関係が固定化しがちな状況にも変化が生まれ、学校生活そのものの魅力を高めるきっかけにする。

対応策まとめ

- ・斜里高校での進学実績、指定校推薦枠の積極的な発信
- ・大学での総合型選抜との接続の発信
- ・斜里高校での活動（知床学など）の町内での積極的な発信
- ・公設民営塾の設置の検討
- ・町外生徒募集の強化

7. これまでの高校魅力化支援（町の取り組み一覧）

斜里町及び斜里高等学校振興会がこれまで行ってきた支援事業を、内容ごとに簡潔にまとめました。

項目	内容（概要）
進学・キャリアアップ支援	
通信講座受講料等の補助	全生徒対象にスタディサブリ受講料を補助
模試・検定等受験料の補助	模試・検定試験の受験料を補助
特色ある教育の充実	
地域を学ぶ授業等への支援	知床学ゼミ活動の謝金・経費を支援
特色ある教育活動への支援	博物館学芸員等による知床学習を支援
専門人材の派遣	介護福祉士・保健師等の講師を派遣
地域教育活動へのバス活用支援	知床学での振興バス活用を支援
介護職員初任者資格の取得支援	介護職員初任者研修の受講料を補助
研究大会等・国際交流への支援	全国大会派遣旅費・台湾研修を支援
地域コーディネーターの配置	コーディネーター配置で留学生支援・魅力化を推進
林業就労者育成の支援	森づくり専門学院進学の交通費等を助成
部活動の充実	
全国大会出場経費補助	インターハイ等出場経費の 2/3 を助成
部活動支援	全道大会経費・道具・外部講師謝金を補助
学習環境の充実	
読書活動支援	町立図書館による配本サービス
学校 ICT 教育環境整備	学習用端末・校外 Wi-Fi 環境を整備
町内遠距離通学者支援	スクールバス・バス運賃を全額助成
町外遠距離通学者支援	通学費・下宿代を全額助成
連携・PR 活動	
生徒募集関係事業費の助成	中学校訪問・オープンスクール等を支援
小中学校との連携	学習成果発表会見学・校長会議等で連携
多様な PR 活動への協力	町広報等で高校の情報発信・PR

8. 今後取り組む新しい支援事業

(1) アンケート結果に基づく支援事業案

アンケート結果（生徒・保護者）から見えてきたニーズをもとに、新たに検討する支援事業と、その根拠を整理しました。

項目	内容（根拠・取り組み内容）
総合学科の特色や、進学についての説明会を実施	斜里高校を志望しない理由の自由記述で「なりたい学科がない」「総合科だとあまり惹きつけられない」「卒業後に専門学校へ進学できるか不安」といった学科理解・進路不安の声が複数の生徒から寄せられ、考察でも進路実績・進路支援体制の情報発信強化が課題とされているため、総合学科の特色や進学についての説明会を実施する。
給食の導入	保護者アンケートで「給食の提供」を求める声が94人／140人（67.1%）と全項目中最多であり、生徒アンケートでも中学1～3年生合計52人／230人（22.6%）が「行きたいと思える条件」として選択している（給食のある清里高校を選んだ生徒の自由記述もあり）ため、給食の導入を進める。
公設民営塾	「放課後に勉強できる公設塾の設置」を、生徒32人／230人（13.9%）、保護者37人／140人（26.4%）が「行きたいと思える条件」として選択しており、生徒アンケートの上位項目にも挙げられているため、公設民営塾の設置の検討を進める。
【主として地域外生向けの施策】 寮の設置	高校選びで重視する項目として「下宿や寮など」を挙げた保護者が36人／140人（25.7%）、生徒も中学1～3年生合計42人／230人にのぼり、「通学の利便性は進学に影響するか」との問いにも98人／140人（70%）が影響すると回答している。これにより、一般論として町外へ出す親の身としては寮を望む声が小さくないことがわかるため、寮の設置を行う。 ※地域みらい留学を検討した生徒・保護者への定量調査（2023年、回答数100）においても、受検したい学校を「決める」際の決め手として「住環境（寮や下宿）」を挙げた回答が15.2%（回答数79人中）と、学校の魅力（17.7%）に次いで高く、学校を最初に絞り込む段階でも「住環境（寮や下宿）」が77.0%と全項目中最多だった。

(2) 斜里町の特色を活かした支援事業案

- ・世界自然遺産地域の高校との連携・交流
- ・斜里高校 知床学の専門人材の配置

(補足) 今年度の斜里高校魅力化に向けた活動報告

中学校との連携

(1) 斜里町内中学校長間の情報共有

- 4/14 (火) 斜里中学校福田校長訪問
- 4/21 (火) 知床ウトロ学校河村校長訪問

(2) 斜里町内中学校での説明会

①中学生保護者向け

- 4/16 (木) 斜里中学校 PTA 総会 (斜里高校について)
- 6/19 (金) 知床ウトロ学校 (高校卒業後の進路選択と探究活動について)
- 7/1 (水) 斜里中授業参加日 (斜里高校での学びと高校卒業後の進路について)

②中学校3年生向け

- 6/8 (月) 清里中学校
- 7/6 (月) 斜里中学校 説明時間確保依頼
- 7/7 (火) 知床ウトロ学校

(3) 中学校訪問

校長による斜里地区の中学校訪問を実施

実施時期：6月～7月

- 8/24 (月) 斜里中学校・斜里高校教員懇談会
斜里中学校 (福田校長・川野教頭・星賀教諭・東教諭・木村教諭・小野寺教諭)
斜里高校 (渡邊校長・井村教諭・槻間教諭)
- 8/25 網走市、清里町、小清水町の中学校訪問

学校と町教委等の連携

(1) 高校魅力化コア会議の設置と開催

地域みらい留学、地域高2留学の運営や斜理町による斜里高校魅力化支援策を検討することを目的とした組織を設置することとした。

①構成員

町教委、教育長、教育部長、学校教育課長、総務課長、斜里高校校長、教頭

②開催方法等

斜里町校長会 (月1回) と合わせて随時開催

③開催実績と予定

1.会議

- 4/24 コア会議 (出席者：渡邊校長、教育長、教育部長、学校教育課長、総務係長)
- 5/19 コア会議 (出席者：渡邊校長、教育長、教育部長、学校教育課長、総務係長、平塚 CO)
- 7/8 コア会議 (出席者：渡邊校長、辻教頭、学校教育課長、総務係長、平塚 CO、渡邊起業人 (PF 藤本氏))
- 7/17 コア会議 (出席者：渡邊校長、辻教頭、山本係長、平塚 CO、(渡邊起業人、PF 藤本氏))
- 8/5 コア会議 (出席者：渡邊校長、辻教頭、総務係長、渡邊起業人)
- 8/18 コア会議 (出席者：渡邊校長、辻教頭、教育部長、学校教育課長、総務係長、平塚 CO、渡邊起業人)

2.その他活動

- 6/5 湧別町への寮の視察 (教育部長、学校教育課長)
- 6/16~30 斜里中学校1~3年生、知床ウトロ学校7~9年生、その保護者に向けたアンケート調査実施
- 7/6 活性化起業人 協定式
- 7/11,12 日本まると高校フェス in 大阪

令和8年9月2日

7/21-23 活性化企業人 佐賀県にて住まい構築研修

7/25,26 日本まるごと高校フェス in 東京

8/21 斜里高校 起業人訪問&挨拶

8/22,23 日本まるごと高校フェス in 東京